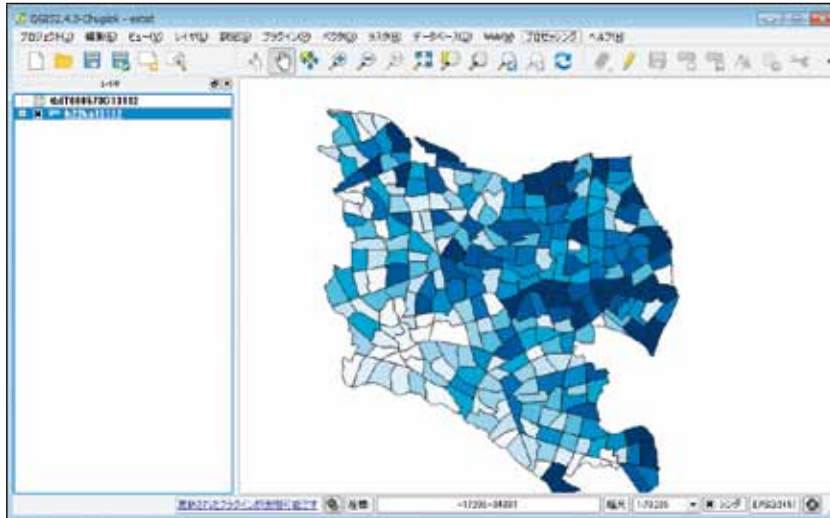
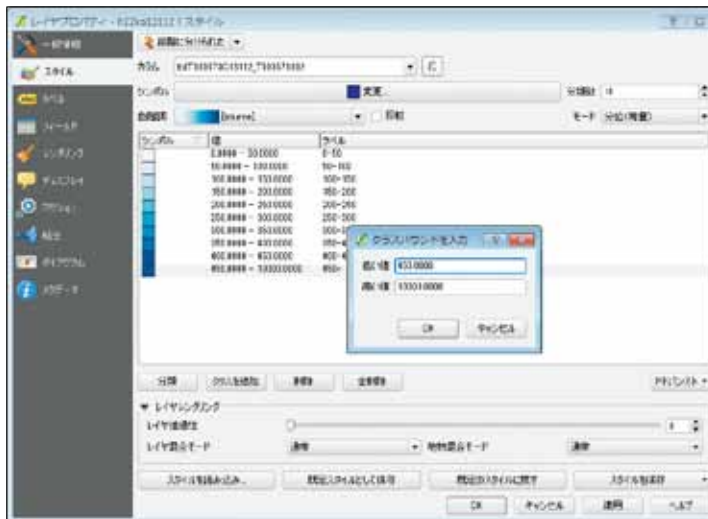


○図 11-11 住民数で色分け表示



○図 11-12 共通の色分け設定



です。違うフィールドを選択して同じように階数分けすると基準が変わってしまうため、フィールド間の比較を行うには適していません。フィールド間の比較を行うには基準となる階数分けスタイルを作成し、各フィールドをもとにしたコロプレスマップを作成したほうがわかりやすいでしょう。

ここでは、年齢ごと（15歳未満、65歳以上、75歳以上）に階層分けしたコロプレスマップを作成します。

注3 いったん全削除して、分類を1つずつ追加してもよいですが、シンボルのグラデーション設定をやり直す必要があります。先に、自動で分類させておいてから値を変更するほうが既存の色設定を利用できて簡単になります。

○図11-13 総数15歳未満 ○図11-14 総数65歳以上 ○図11-15 総数75歳以上



まず [レイヤプロパティ] → [スタイル] で、現在設定されている階層を利用して「値」と「ラベル」を変更していきます<sup>注3</sup> (図11-12)。「値」の区切りは、厳密に行うのであれば、すべてのフィールドに含まれる数字の最大値を表計算ソフトなどで計算してから決めていくことになりますが、ここでは大まかに分けて、最大値で十分大きな値を指定して全数字をカバーするような設定にしてみました。

「カラム」を変更しながら描画させることで、共通の階数分けでコロプレスマップ (図11-13～11-15) を表示できます。

## 11.7 選択したレイヤを出力する

境界データと統計データを結びつけたデータは、境界データのESRI Shapefileには反映されず、QGISのプロジェクトファイル上に保存されます。もし、結びつけた状態のデータを他のシステムで利用したい場合は、境界データを別途保存しなおす必要があります。境界データを右クリック→ [名前を付けて保存] でフォーマットを選択して、別ファイルとして保存してください。

## 11.8 保存する

境界データと統計データの結合や、境界データへの階数分けスタイルの設定は、QGISのプロジェクトファイルに保存されます。メニューから [プロジェクト] → [保存] (もしくは [名前を付けて保存]) をしてください。

### コラム 標準地域メッシュコードとは？ ——2050年の人口予想図を作成する

#### ● 標準地域メッシュコード

統計情報を見る際に、行政区画の単位で見ってしまうと、各区画の面積が違うため情報を見